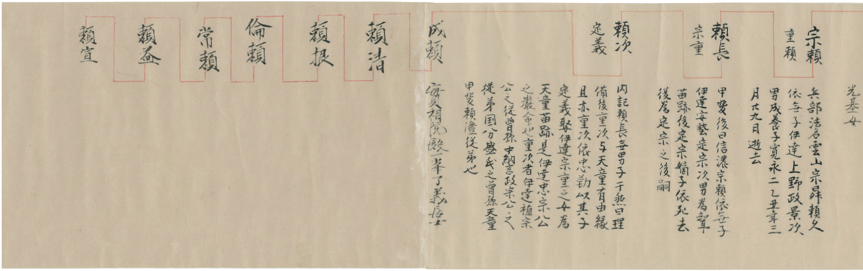


光基女

宗頼
重頼

兵部法名雲山宗昇頼久
依無子伊達上野政景次
男成養子寛永二乙丑年三
月廿九日逝去

頼長
宗重

甲斐後日信濃宗頼依無子
伊達安藝定宗次男為聟
苗跡後定宗嫡子依死去
復為定宗之後嗣

頼次
定義

内記頼長無男子于然日理
備後重次（与）天童有由縁
且亦重次依忠勤以其子
定義娶伊達宗重之女為
天童苗跡是伊達忠宗公
之厳命也重次（者）伊達稙宗
公之従曾孫中納言政宗公之
従弟国分盛氏之曾孫天童
甲斐頼澄従弟也

成頼

實相院殿一峯了義居士

頼清

頼根

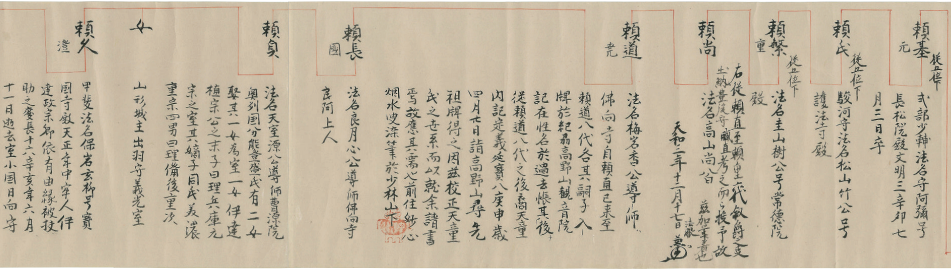
倫頼

常頼

頼益

頼宣

（法量：一八・〇cm×一三一・〇cm）



頼基（元）　従五位下
式部少輔法名守阿彌号
長松院殿文明三辛卯七
月三日卒

頼氏　従五位下
駿河守法名松山竹公号
護法寺殿

頼繁（重）　従五位下
法名圭山樹公号常徳院
殿

右従頼直至頼重六代叙爵之事
出納豊後守職直考之而被授予故

頼尚
法名高山尚公
茲加筆者也
法眼
天和三年十二月十七日（花押）

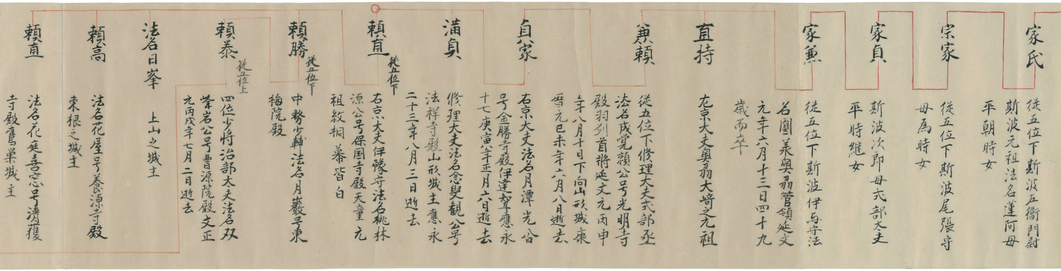
頼道（尭）
法名梅岩香公導ー師ハ
佛向寺自頼直已来至
頼道八代各其嗣子入ー
牌於紀州高野山観音院
記在性名於過去帳其後チ
従頼道八代之後裔天童
内記定義延宝八庚申歳
四月廿日詣高野山尋先
祖牌得之因茲校正天童
氏之世系而以就余請書
焉故応其需也前住妙心
烟水叟染筆於少林山下（朱印）

頼長（國）
法名良月心公導師佛向寺
良阿上人

頼貞
法名天室源公導師曹源院
奥州国分能登盛氏有二女
娶其一女為室一女伊達
稙宗公之末子曰理兵庫元
宗之室其嫡子同氏美濃
重宗四男曰理備後重次

女
山形城主出羽守義光室

頼久（澄）
甲斐法名保岩玄柳号寶
国寺殿天正年中牢人伊
達政宗卿依有由縁被扶
助之慶長十六辛亥年六月
十一日逝去室小国日向守



家氏
従五位下斯波左衛門尉
斯波元祖法名蓮阿母
平朝時女

宗家
従五位下斯波尾張守
母為時女

家貞
斯波次郎母式部太夫
平時継女

家兼
従五位下斯波伊与守法
名圓承奥州管領延文
元年六月十三日四十九
歳而卒

直持
左京大夫奥州大崎之元祖

兼頼
従五位下修理大夫式部丞
法名成覚頴（就）公号光明寺
殿羽州首将延文元丙申
年八月十日下向山形城康
暦元己未年六月八日逝去

貞家
右京大夫法名月潭光公
号金勝寺殿伊達聟応永
十七庚寅年正月六日逝去

満貞
修理大夫法名念叟観公号
法祥寺殿山形城主応永
二十三年八月三日逝去

頼直（従五位下）
右京大夫伊豫守法名桃林
源公号保国寺殿天童元
祖紋桐　幕皆白

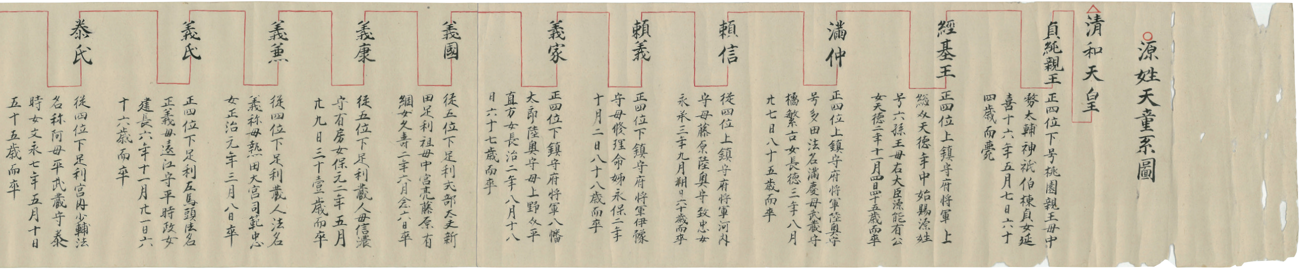
頼勝（従五位下）
中務少輔法名月巖号東
梅院殿

頼泰（従五位上）
四位少将治部太夫法名双
峰岩公号曹源院殿文正
元丙戌年七月二日逝去

法名日峯
上山之城主

頼高
法名花屋号養源寺殿
東根之城主

頼直
法名花庭喜窓号清獲
寺殿鷹巣城主



○源姓天童系図

△清和天皇

貞純親王

正四位下号桃園親王母中務太輔神祇伯棟貞女延喜十六年五月七日六十四歳而薨

経基王

正四位上鎮守府将軍上総介天徳年中始賜源姓号六孫王母右大臣源能有公女天徳 年十一月四日四十五歳而卒

満仲

正四位上鎮守府将軍陸奥守号多田法名満慶母武蔵守橘繁古女長徳三年八月廿七日八十五歳而卒

頼信

従四位上鎮守府将軍河内守母藤原陸奥守致忠女永承三年九月朔日六十歳而卒

頼義

正四位下鎮守府将軍伊豫守母修理命婦永保二年十月二日八十八歳而卒

義家

正四位下鎮守府将軍八幡太郎陸奥守母上野介平直方女長治二年八月十八日六十七歳而卒

義國

従五位下足利式部太夫新田足利祖母中宮亮藤原有綱女久寿二年六月念（廿）六日卒

義康

従五位下足利蔵人母信濃守有房女保元二年五月廿九日三十壱歳而卒

義兼

従四位下足利蔵人法名義称母熱田大宮司範忠女正治元年三月八日卒

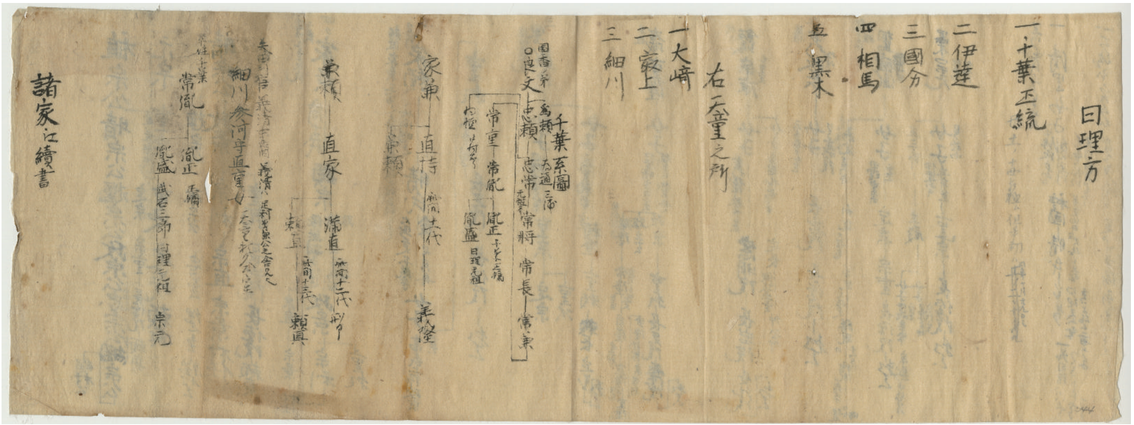
義氏

正四位下足利左馬頭法名正義母遠江守平時政女建長六年十一月廿一日六十六歳而卒

泰氏

従四位下足利宮内少輔法名称阿母平武蔵守泰時女文永七年五月十日五十歳而卒

（諸家系図）（No.00656）



（表）

日理方

一 千葉正統

二 伊達

三 國分

四 相馬

五 黒木

右天童之所

一 大崎

二 最上

三 細川

千葉系図

国香ノ弟 ○良文 ― 為頼 ― 為通 ― 三浦

忠頼 ― 忠常 ― 常将 ― 常長 ― 常兼

常重 ― 常胤 ― 胤正 千葉正統

将恒 中村忠部

胤盛 日理元祖

家兼 ― 直持 此間十一代 ― 義隆

兼頼

兼頼 ― 直家 ― 満直 此間十二代 刑部

頼直 此間十三代 頼真

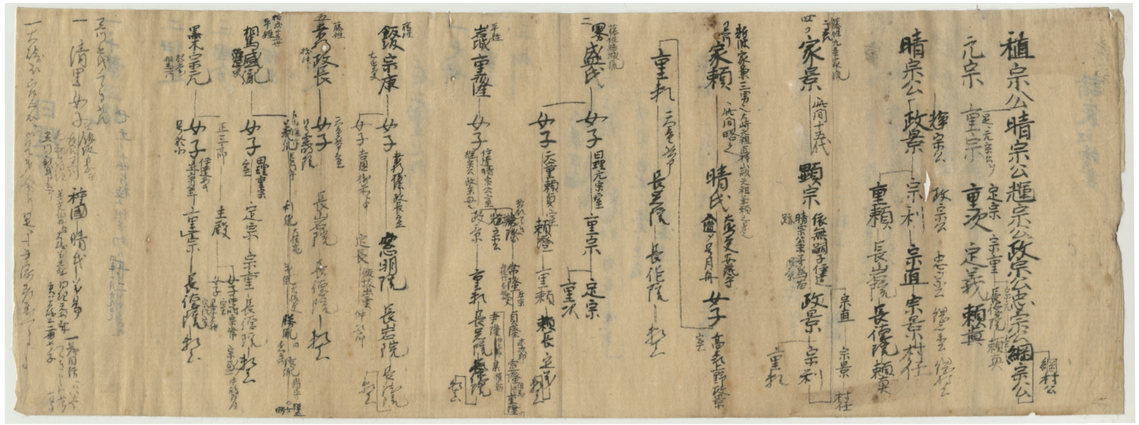
矢田判官義清末裔義清ハ足利義兼公之舎兄也

細川参河守直重女 天童頼久公室

平姓千葉 常胤 ― 胤正 正嫡

胤盛 武右三郎 日理元祖 ― 宗元

諸家江續書



（裏）

植宗公 晴宗公 輝宗公 政宗公 忠宗公 綱宗公 綱村公

元宗 ― 是（元宗公ヲ） 定宗 ― 重宗 ― 長徳院 ― 頼真

重宗 ― 重次 定義 頼真

晴宗公 ― 輝宗公 政宗公 忠宗公 綱宗公 綱村公

藤姓九条家流 高森

四 家景 ― 此間十五代 ― 顕宗 依無嗣子伊達晴宗公末子為両 跡 政景

政景 ― 宗利 ― 宗直 ― 宗景 ― 村任

重頼 ― 長岩院 ― 長徳院 ― 頼真

宗直 ― 宗景 ― 村任

斯波家兼三男也大崎元祖持山形元祖兼頼之弟也

黒川 □ 家頼 ― 此間略也 ― 晴氏 右衛門大夫安藝守 入道□号月舟 ― 女子 高森上野政景室

重頼 天童兵部 ― 長岩院 ― 長徳院 ― 頼真

藤姓結城流 國分 二 盛氏 ― 女子 日理元宗室 ― 重宗 ― 定宗

女子 天童頼貞室 ― 頼澄 ― 重頼 ― 頼長 ― 定義

重次

惣領 親隆 ― 常隆 ― 輝宗公 ― 貞隆 ― 宣隆 ― 重隆

伊達晴宗公室 ― 尹隆 ― 其 ― 政景 ― 重頼 ― 長岩院 ― 長徳院 ― 頼真

平姓 岩城重隆 ― 女子 伊達輝宗公室 政景母也

藤姓 飯坂宗康 ― 女子 桑折祺津政長室 ― 窓明院 ― 長岩院 ― 長徳院

右近大夫

女子 吉岡御前ト申 ― 定長 飯坂出雲 ― 仲次郎 ― 頼真

天童兵部室

五 桑折政長 ― 女子 号窓明院 ― 長岩院 ― 長徳院 ― 頼真

桑折 ― 義胤 ― 利胤 ― 義胤 ― 勝胤 ― 信胤

相馬 ― 女子 日理重宗室 ― 定宗 ― 宗重 ― 長徳院 ― 頼真

桓武廿五世 守胤 相馬盛胤 弾正大弼

黒木宗元 ― 女子 伊達あキ ― 正三郎 ― 主殿 ― 女子 定宗室 ― 重宗 ― 長徳院 ― 頼真

女子 定宗室

黒川近代ノつゞき如此

一 清里女子 ― 飯坂息ヲ ― 取合黒川 ― 種國 ― 晴氏 ― 義易 ― 一茂岡防（八五郎）

為賀□□ 義光伯母ニ大崎義兼室 日理元安室 つゞき申候哉考可申事

黒川能氏ト云可

一 大崎 □□取上□（仰付□義余リ是ハ書添差置可申事

（法量：一五・一cm×四一・四cm）

（裏書）
大崎惣領家譜

（仁王五十九代）
清和天皇　諱惟仁

第六
貞純親王　上總帥親王　四品中務卿　月輪内院　白幡園之一
号統園親王共　母神祇伯種女

経基王　上野源氏前武蔵等守祖　大公望作者
左衛門権佐正四位上　鎮守府将軍　西谷祖
大宰大弐従二位　六孫王　源満仲　源頼信　源頼義
母右大臣源能有女　号六孫王依第六親王子也

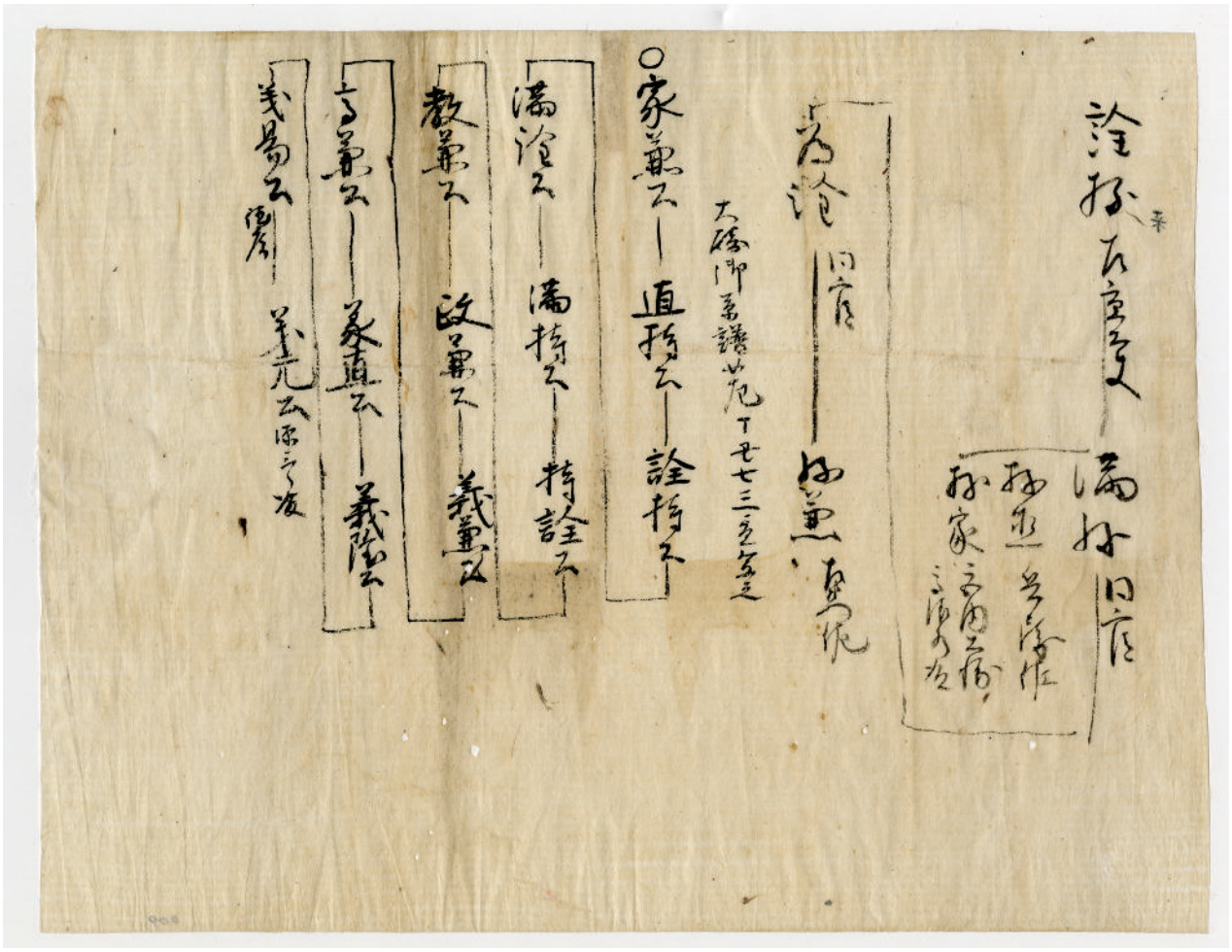
満仲　右馬頭左馬権頭正四位上摂津守　鎮守府将軍　一位
鎮守府将軍摂津源氏棟梁　多田満仲　多田新発意
貞元二年十五日薨去多田満仲墓在摂津国川辺郡多田院
長徳二年十月廿一日武蔵守権守叙人位　従二位

第二
頼信　鎮守府将軍兼伊勢守　河内源氏棟梁　出羽守等歴
河内守　相模守　甲斐守　武蔵守　陸奥守　従四位上
宮造作人　馬頭左衛門尉内昇殿　出羽守等歴
寛仁元年十一月廿八日　任相模守　正四位下
母大納言元方女　永承二年薨卒

頼義　鎮守府将軍　伊予守　陸奥守　出羽守等歴
入道前陸奥守　正四位下　伊豫権守左近将監左衛門尉
号前九年入道　源氏棟梁　出羽守等歴
従五位下　左馬頭　左衛門尉　従四位上　伊勢守
母修理大夫平直方女　永保元年十一月廿八日
薨年六十八

義家　鎮守府将軍　出羽守　陸奥守　伊豫権守　左近将監　左衛門尉
号八幡太郎　源氏長者　正四位上　従二位　権大納言
正二位　内大臣　贈太政大臣　源氏棟梁
母上総介平直方女

義国　第二　三郎　帯刀長官　正四位下　大和守　下野国新田住
従五位下　左馬頭　左兵衛督　従五位上　左馬権頭
従五位下　武蔵守　上野介　為義　為国　従五位上　為宗
為国　為義　為宗　為朝　為仲　為成　為頼　為基　為綱　為忠　為行



詮持 左京大夫
- 満持 同官
  - 持直 兵衛佐
  - 持家 宮内大輔 高清水殿
- 為詮 同官
  - 持兼 左衛門佐

大崎御系譜如左丁丑七三昼写之

○家兼公
- 直持公
  - 詮持公
    - 満詮公
      - 満持公
        - 持詮公
    - 教兼公
      - 政兼公
        - 義兼公
    - 高兼公
      - 義直公
        - 義隆公
    - 義易公 徳庵
      - 義元公 源三郎殿

（法量：二四・一cm×三一・一cm）